

日比野 桂子 展

絵画やオブジェなど13点

5月の久我記念美術館は、3日から28日まで「日比野 桂子展」を開催します。

日比野さんは、福岡市城南区にお住まいの画家。

作品は、絵画（油彩・水彩）やオブジェなど13点。油彩は、伸びやかな曲線と多彩な色使いが魅力です。近年は、壁画

製作にも取り組まれています。福岡県美術協会、福岡市美術連盟会員。メッセージが寄せられましたので紹介します。



メッセージ

「油彩と水彩、今までの作品を振り返ってみたいことと、今の自分の方向性を見つめなおしたいと強く思っています。立体作品やオブジェにも挑戦します。忌たんのない感想をお願いします」

主な略歴

- | | | |
|------|-------------|-------|
| 1993 | 福岡市美術展 | 文化連盟賞 |
| 1995 | 西部水彩協会展 | 大賞 |
| 1996 | 西日本女流美術展 | 大賞 |
| 1997 | 福岡県美術展 | 県知事賞 |
| 1998 | 別府現代絵画展 | 入選 |
| 2000 | 福岡県美術展 | 特別奨励賞 |
| 2004 | 第13回英展 | 選定出品 |
| 2005 | 上の森美術館大賞展入選 | |
| 2006 | 上の森美術館大賞展入選 | |
- 一次賞候補



4月の企画展

I. DOグループ展

絵画、書、オブジェなど18点
4月2日(日)~30日(日)
(月曜休館・入場無料)



写真の桜は観音谷 佐藤信幸さん宅のもの。
撮影は長礼区 園田 勤さん。

桜餅には桜の葉が用いられ、一般的に大島桜の葉が使用されています。桜の葉かご存知ですか？

桜の葉には、精油成分のクマリンという物質が含まれています。桜の葉を塩漬にすることにより、甘い独特の香りのクマリンが生まれます。桜の木の中でも、大島桜の葉が桜餅に使われているのは、この成分が多く含まれているからです。

また、クマリンには抗菌性があり、桜餅の保存にも役立つ

餅の保存にも役立つ。桜餅の葉は、伊豆地方で多く栽培され、葉を摘み取りやすいように人の背丈ほどに仕立てられた桜の若葉を摘み取って、塩漬けにされたものが使用されているようです。

桜茶は桜の花を用いますが、その品種は八重品種でピンクの色が、やや濃い「関山」などが用いられているようです。

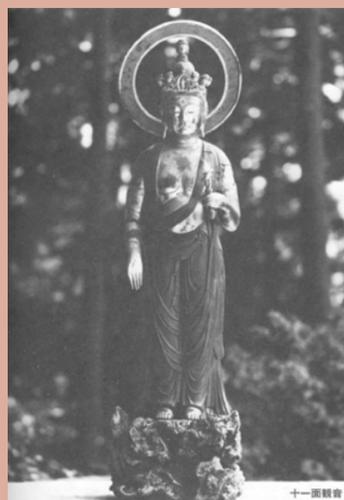
ここで、桜茶の作り方を紹介します。三分咲くらいのヤエザクラ百グラムに塩二十五グラム、梅酢大さじ二杯を用意。軸を付けたまま摘み取った花を水洗いして水気を切り、用意した塩をまぶし、漬物容器に入れ圧します。2~3日で水が上がるのでこれを捨て、代わりに梅酢を加え3日くらい置き、ザルなどに広げて2~3日陰干しにします。

最後に大きじ一杯の塩をまぶしながらほぐし、出来上がりです。皿山公園には多くの八重桜があります。試しに作ってみてはいかがでしょうか。

(おわり)



桜の花と葉



4月2日に、佐谷建正寺の十一面観音のご開帳が行われました。この観音堂に、二体の十一面観音像が納められていることを、みなさんご存知でしょうか？

一体は県指定文化財（彫刻）の現在の本尊、もう一体は町指定文化財（彫刻）のかつての本尊です。前者は、像高約175センチと立派な像です。漆箔（漆を摺り、その上に漆で金箔を貼る技法。）で装飾していましたが、大部分が剥落しています。後者は、像高約120センチと小ぶりです。

今から約300年前に修復しており、その時に彩色を施しています。

県指定の仏像は、昭和24年頃まで旧観音堂の長櫃の中にバラバラの状態が入っていました。そして、町指定文化財の十一面観音像が本尊としてまつられていました。

昭和5（1930）年に、福岡県が発行した『史蹟名勝天然記念物調査報告書』第5輯では、頭の部分のみを写真で紹介しています。

バラバラの仏像が、どのようになっているのかを、次回以降紹介していきます。

(啓)

楽の考古学 11

佐谷の秘仏 二体の十一面観音像